

## 【集計結果】(全国被害者支援ネットワーク電話相談受理状況、平成15年1月～2月)

### I 概観

#### 1. 電話相談受理件数

平成15年1月～2月の2ヶ月間の相談件数は、総計1401件であった。相談受理件数は、団体により大きな差があり、最大で422件、最小で1件、100件近くの件数を受けている団体もいくつかあるものの、多くの団体は20件～50件程度であった。

表1. 受理件数別団体数

受理件数	1～19件	20～49件	50～99件	100 ～149件	150 ～199	200件 以上
団体数	8団体	12団体	2団体	1団体	2団体	1団体

#### 【各組織の電話相談日数】

各組織の電話相談受理件数に見られるこのような大きな差には、各組織の相談受理日数の差も反映されている。全国被害者支援ネットワークの活動は各団体により、開設している相談日数が異なる。今回、電話相談受理件数の集計の回答があった、26組織について、週間の相談受理日数の分布を見ると、週7日24時間体制の組織が1団体、週5日（10団体）、週3日（1団体）、週2日（14団体）となっている。なお、この中で土曜日も開設している団体が10団体含まれている。

表3. 相談日数と団体数(26団体)

日数/週	7日(土日開設)	5日	3日(うち土開設)	2日(うち土開設)
団体数	1団体(1団体)	10団体	1団体(1団体)	14団体(8団体)

以下に、本調査期間中に受理した1401件の資料を概観し、全国被害者支援ネットワーク加盟組織の電話相談受理状況について分析してみる。ここで、予めお断りさせていただくが、この1401件中には、調査期間中に新たに相談を受けた新規受理の861件のほかに、継続受理相談が537件含まれている。後者については、同一事例が調査期間中に複数回相談している場合もあるが、電話相談の性質上、厳密な個人識別ができない場合も多く、ここではそれらを合わせた総件数の分析にとどめる。

## 2. 相談者と被害者

### 1) 相談者の性別

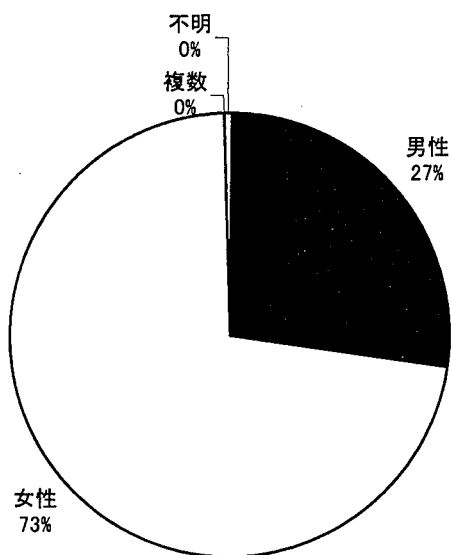
相談者の性別を見ると、表2に示すように、相談件数総計1401件のうち、女性1011人（73%）、男性382人（27%）、1回の相談電話に複数の人が出たと考えられるケースが1件、不明7件であった。

全相談者の3分の2以上が女性である（図1参照）。女性の方が相談電話をかけやすいとみなすことができるが、また、多くの団体は平日の日中しか相談電話を開設していないので、就労している者は相談電話をかけにくいという事情も影響している可能性がある。

表2. 相談者の性別

相談者性別	相談件数
女性	1011件
男性	382件
男女（複数）	1件
不明	7件
合計	1401件

図1. 相談者の性別



## 2) 被害者の性別

被害者の性別は、1401件のうち、男性432件(30.8%)、女性836件(59.7%)、男女複数10件(0.7%)、不明123件(8.8%)となった。

表4. 被害者の性別

男性	432 件
女性	836 件
男女複数	10 件
不明(無記入)	123 件
合計	1401 件

## 3) 相談者と被害者の関係

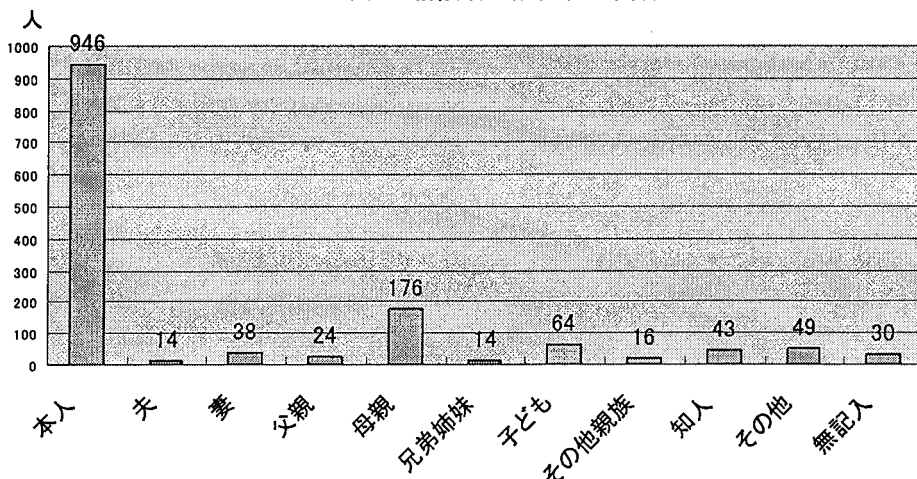
電話による相談者と被害者との関係をみると、被害者本人が946人(67.5%)、被害者の母親176人(12.6%)、被害者の子ども64人(4.6%)、知人43人(3.1%)、妻38人(2.7%)、父親24人(1.7%)、その他の親族16人(1.1%)、夫14人(1.0%)、兄弟姉妹14人(1.0%)、その他49人(3.5%)、無記入30人(2.1%)となり、合計1414人となった(かっこ内は全体相談件数1401件に対する%) (図2参照)。

電話相談者は被害者本人が全体の6割以上を占める。本人以外の相談者は468人であるが、中でも最も多いのは、被害者の母親からの相談で、176人である。

表5. 相談者類型

本人	946 人
夫	14 人
妻	38 人
父親	24 人
母親	176 人
兄弟姉妹	14 人
子ども	64 人
その他親族	16 人
知人	43 人
その他	49 人
無記入	30 人
合計	1414 人

図2. 相談者と被害者の関係



### 3. 相談の主旨

相談の主旨に関しては、複数の内容が含まれている場合には、電話を受けた相談員が判断し、最も相談者が相談したいと思われる主旨1つを、選ぶこととした（一部に複数回答が含まれていたため、相談件数総数と相談主旨総数が合致しない）。

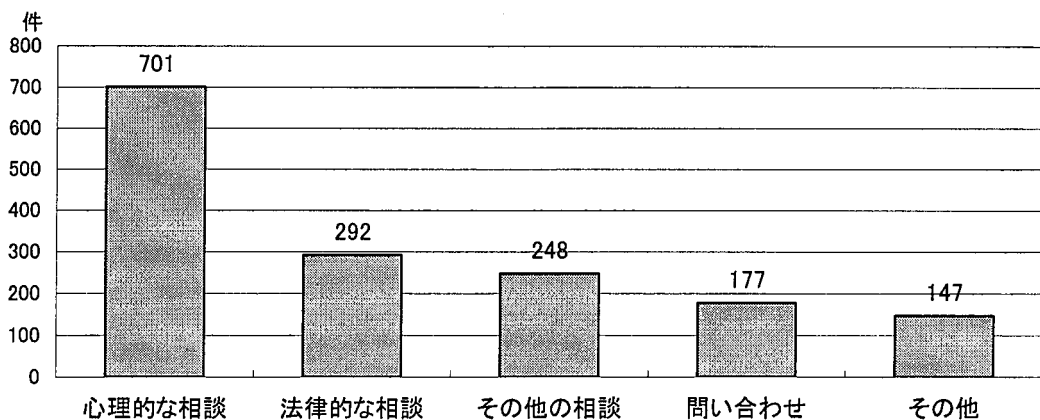
結果は以下の通りである（カッコ内の％は、相談受理総件数1401件に対する比率を示す）。

心理的な相談701件（50.0％）、法的な相談292件（20.8％）、その他の相談248件（17.7％）、問い合わせ177件（12.6％）、その他147件（10.5％）となり、心理的相談がほぼ半数を占めている。

表6. 相談の主旨

心理的な相談	701件
法的な相談	292件
その他の相談	248件
問い合わせ	177件
その他	147件
合計	1565件

図3 相談の主旨



### 4. 新規受理相談と継続受理相談

調査期間中（平成15年1月～2月）に初めて相談受理した事例を新規とし、継続事例と区別してみると、新しく入った相談は861件（61.5％）、継続相談は537件（38.3％）、無記入3件（0.1％）となり、全体件数1401件のうち6割が新規受理相談であった。

表7. 新規・継続件数

新規	861件
継続	537件
無記入	3件
合計	1401件

## 5. 被害類型

被害類型については、被害罪種名の別により、表8に示すように、大きく8つのカテゴリーに分けた。

各カテゴリーに含まれる主な被害罪種は以下の通りである。

生命被害	殺人・強盗殺人・強姦殺人・傷害致死・過失致死・不明・その他
身体被害	傷害・暴行・過失致傷・不明・その他
財産被害	強盗・強盗致傷・窃盗・詐欺・恐喝・不明・その他
性的被害	強姦・強姦致傷・強制わいせつ・不明・その他
精神的被害	名誉毀損／侮辱・脅迫／強要・不明・その他
災害被害	

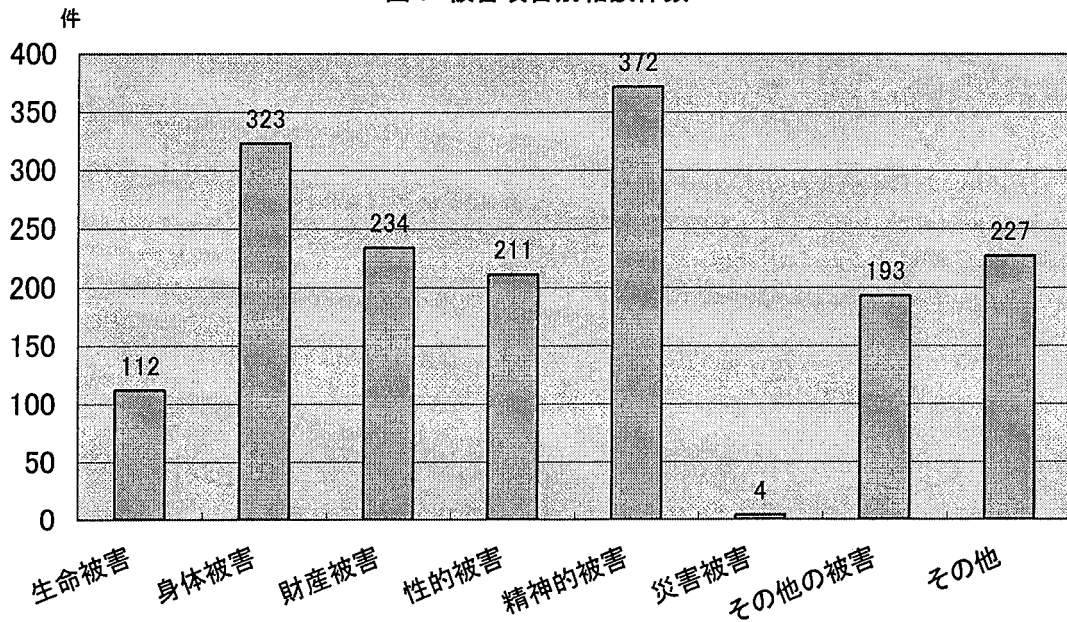
表8.

8つのカテゴリー別被害類型

生命被害	112 件
身体被害	323 件
財産被害	234 件
性的被害	211 件
精神的被害	372 件
災害被害	4 件
その他の被害	193 件
その他	227 件
合計	1676 件

回答については、複数回答可とした。その結果、生命被害112件（8.0%）、身体被害323件（23.1%）、財産被害234件（16.7%）、性的被害211件（15.1%）、精神的被害372件（26.6%）、災害被害4件（0.1%）、その他の被害193件（13.8%）、その他227件（16.2%）となった（図4参照）。

図4 被害項目別相談件数



## 6. 被害態様

各事例について被害罪種名とは別に、表9に示すような被害態様の類型化を行った。これは、それぞれの被害の特徴を把握するためで、事例によっては複数の項目に該当するものもあれば、どの項目にも該当しないものもある。複数回答可として調査した結果、総計1555件がチェックされた。

被害態様の特徴として、多いものから、「職場・近隣・友人間の問題」156件、「被害念慮・妄想」134件、「交通業過」129件、「DV被害」112件、「消費者被害」98件、「ストーカー被害」68件、「虐待」42件、「いじめ」30件、「セクシャルハラスメント24件」、「医療過誤」7件、

「危険運転」5件、「災害被害5件」、「テロ被害」2件、となった（図5参照）。

表9. 被害態様

ストーカー被害	68件
DV被害	112件
セクシャルハラスメント	24件
交通業過	129件
危険運転	5件
虐待	42件
いじめ	30件
医療過誤	7件
家庭内の問題	107件
職場・近隣・友人間の問題	156件
消費者被害	98件
被害念慮・妄想	134件
テロ	2件
災害	5件
その他	322件
無記入	314件
合計	1555件

図5. 被害態様

